

## 平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

### 1. 学校概要

学校名 岡山市立蛸明小学校

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

所在地 〒701 - 1462  
岡山県岡山市北区大井360番地

E-mail keimeis@city-okayama.ed.jp

Website http://www.city-okayama.ed.jp/~keimeis/

児童生徒数 男子 43 名 女子 67 名 合計 110 名  
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

##### 1. 第3学年「こんにちは、蛍明～人・もの・生き物との出会いを通して～」

###### ○ホタル調査（5月～6月）

地域でこの時期に多く見られるホタルについて、調べ学習で分かったことや考えたことを新聞にまとめた。ホタルについては、ホタルまつりが各地区で行われており、昨年までの3年生の発表などであらかじめ知っていることも多かったが、さらに調べてみたいことや実はうまく説明できないことも多くあった。そこで子どもたちの調べたいことを中心にグループに分け、本で調べたり、家や地域の人にインタビューをしたりして、課題を解決していった。調べたことを新聞にまとめていく中で、ホタルの生息できる自然環境の特長に気づいたり、自分たちの地域だけでなくほかの地域にも同じようにホタルが生息しているところがあること、ホタル保護のために活動している人たちがいることなどに気づいたりすることができた。

###### ○足守メロンづくり調べ（6～7月）

本学区の特産品である足守メロンについて、その作り方や生産者の工夫や苦勞について調べた。6月末には足守メロンが作られているメロン団地を見学した。そこでは、生産者から直接話を聞くことで、苦勞や生産の工夫について実感の伴いながら学ぶことができた。また、見学後にお世話になった方に手紙を書くことで、生産者の思いを改めて振り返ることができた。



###### ○足守川生き物調査（9～11月）

足守川の生き物調査を通して、地域の川の特長や自然環境の実態を知ることができた。10月16日には、岡山淡水魚研究会の方を講師としてお招きし、学区を流れる足守川で魚や魚介類を見つけ、それらの生態について詳しく話を聞くことができた。この学習を通して、川の環境を維持していくことがそこに生息する生き物たちにとって大切なことであり、それは自分たちの生活とも深く関わっていることに気づくことができた。



### ○石川県大海小学校との学校間交流（10～3月）

昨年度よりユネスコスクールに加盟している小学校との交流が始まった。学校や地域の紹介をし合い、互いに知り合うことを目的とした交流を行った。地域のことを知ってもらうために、特産物として蛭明小学校からは足守メロンを送り、大海小学校からは紋平柿が届いた。その後、そのお礼と児童の自己紹介を兼ねた手紙の交換を行った。10月には担任が大海小学校を訪問し、児童との交流や今後の打ち合わせ等をした。2月には、スカイプを使った交流授業を行った。

### 2. 第4学年「だれでも安心してらせる町づくりをしよう」

#### ○校内のバリアフリーを見つけよう・車いす体験・アイマスク体験（12～2月）

学校の中のユニバーサルデザインやバリアフリーについて調べた。エレベーター、多目的トイレ、点字ブロックなどを見つけ、学校が避難所となった時などに、様々な立場の人にとって役に立つ施設であることに気づくことができた。また、車いす体験やアイマスク体験を行い、障害のある方の気持ちや日常生活の中で困ることや大変なことについて考えた。校内で見つけたユニバーサルデザインやバリアフリーと体験したことを結び付けて考え、校舎内をもっと安全で安心できるような工夫を考えると共に、誰もが安心して暮らせる町にするためにできることを考えた。学校の中のユニバーサルデザインやバリアフリーを写真にとり、校内の絵地図にまとめ、地域に発信することができた。



### 3. 第5学年「すごいぞ！米パワー」

#### ○米づくり体験（4月～11月）

学校近くの田を借りて、米づくり体験（粃まき・田植え・稲刈り・脱穀）を行った。体験に加えて、ゲストティーチャーに米づくりの工夫についての話をうかがった。米づくり体験前半（4月～7月）のまとめとして、活動報告書を作成した。

#### ○お飾りづくり（12月）

体験を通して、米づくりと日本の文化（年中行事）についての理解を深めた。地域の方をゲストティーチャーとして招き、お飾り作りを教えていただいた。

#### ○活動報告会（12月）

本年度の取組を、プレゼンテーションソフトを用いてまとめ、活動報告会を行うことで、学習したことを地域に発信し、地域のよさを知ってもらったり、抱える課題について共に考えたりすることができた。

#### ○収穫祭（1月）

収穫を祝い、お世話になった地域の方に感謝を伝えるために、収穫祭（ご飯と豚汁づくり）を行った。



4. 第6学年「地域の先人たちから学ぼう～歴史探検～」(5月～7月)  
 ○自分たちの住んでいる蛍明学区にあるお寺や神社、古墳、城跡などを学区に伝わる文献やインターネットを用いて調べた。自分の祖父母や両親に聞いたり、近所の見聞を持っている方にインタビューしたりした。また、休日を利用して実際に足を運び、デジタルカメラを用いて紹介したい場所の写真を撮り、まとめに活用することができた。自分が調べた歴史スポットを1人1ページにまとめ、出来上がった原稿は、印刷業者に依頼し、カラーで製本することができた。

**星神社**

不思議な言い伝えがある  
星神社はいつ建った  
この星神社は約十三百二十  
年前の飛鳥時代 天武  
天皇(六百七十三～六百八  
十六)の御世に造られたと  
伝えられています

**言い伝え**  
この宮の縁起は、星今で  
いう隕石が  
落ちてきたと  
いわれています  
から、遠い昔  
から雲が降り  
この塚山に空

雷が鳴りまひびき、  
山が揺れ動くこと  
五十三日間も続い  
ていました。山頂  
には、光を放つものが  
あり近づいてみると、  
大きな星が三つありま  
した。人々はおそれて  
近づかなくなりまし  
た。陰陽師によつて、ま  
うと三つの星が落ち  
てきたことがわかりまし  
た。

**場所**  
現在本殿裏の玉垣の  
中に、苔むした高さ五  
ほとある大きな岩が  
ご神体だといわれています。  
箱におさまらわ  
れている。この山に、岩が  
落ちたか、隕石が落ち  
たか伝説はいろいろあり  
ます。

**編集後記**  
星神社は、飛鳥時代に  
造られたことが分かりまし  
た。他にもっと知りたいと  
思いました。  
蛍明小六年坪井楓華

(編-4) 坪井楓華

**道本山本乗寺**

地域の人が大切に  
道本山本乗寺

秋津尾宿  
豊前石城  
壬午師老  
松山内  
道本山本乗  
寺跡地  
長瀬寺跡  
工天正徳間  
に跡地を  
しました。

Q 道本山本乗寺の  
聖人って何ですか？  
A 七人だそうですが、  
その人の位です。

**後記**  
この寺は、佐  
藤氏の  
ご先祖様  
の墓所  
として  
建てられ  
たとい  
われています。

道本山本乗寺  
の歴史  
を調べ  
ました。  
この寺  
は、佐  
藤氏の  
ご先祖  
様の墓  
所とし  
て建て  
られた  
といわ  
れてい  
ます。

(編-3) 河野悠志

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ( )